たった 66 年の間に起き、その影響が 100 万年にも及ぶ
核･原子力事故に関する 7 つのデータ

広島と長崎に落とされた原爆は、もとはといえば、ヒットラー･ドイツによる第二次世界大戦を終わらせるため、ベルリンと工業地帯マンハイム/ルートヴィクスハーフェンに落とさるはずでした。しかしアメリカで原爆が完成する前にドイツが無条件降伏をしたため（それだけではありませんが）、そしてまだ日本はアメリカと戦争状態にあったため、広島と長崎に原子力爆弾が落とされることとなりました。原爆は予想以上の規模の破壊をもたらし、原爆の開発に貢献したアインシュタインにすら、「これは人類に対する犯罪だ」と言わしめることとなりました。

しかし、この原爆の恐るべき効果にすべての人間が驚き、慄いただけではありませんでした。この「究極的」破壊力の中に、この究極的武器を手に入れれば、残りの世界を覇権できるだろうと夢見た人たちがいました。それでほかの国々も争ってこの原爆を手に入れようとしました。そしてまずソ連が 1949 年にそれに成功しました（その後 8 ヶ国が続くこととなります）。

しかし、それまでの戦争とは比べ物にならぬほど、たくさんの国々にあれだけの悲惨な経験、死、荒廃と破壊をもたらした戦争が終わったあと、原子力爆弾による武装に激しく反対する運動が高まり、「もう二度と戦争はごめんだ」という声が強まりました。
新しく作られた日本の憲法では、日本国民は、戦争と武器による威嚇または武力の行使を永久に放棄する、と国民に義務付けました。現在の日本の総理大臣 - 正確に言えば「原子総理大臣」です － 安倍はそれに反し 2002 年に、小さいものならば、日本が核兵器を持つことは問題ない、と発言しました...

（戦後の）核･原子力技術に対する反対運動を制圧するため、「核兵器ロビー」はトリックを用い、「原子力の平和利用」なるものを考え出しました。アイゼンハワーは 1953 年に「atom for peace」を表明し、同時に「国民を核分裂や核融合に関し真実を教えない」よう「同志」に指図しました。

それからというもの、システマチックな隠蔽、隠秘が「原子力の平和利用」には今日までずっと付きまとっています。

批判をするもの、反対をするものはまずことごとく無視され、それでも足りないと見ると笑いものにしたり、誹謗し、制圧し、排除され、犯罪者扱いします（日本では最近「秘密保護法」ができて、おそらく原子力エネルギーや福島の事故に関する情報がそこで「保護」されることになる。この法律に触れるものには厳しい処罰が待ち受けています － 長期の懲役刑もありうるのです。）

そしてできる限り、この技術に関するすべての破壊的影響が秘密にされ、否定され、過小評価されます。データ（ことに測定データ）は操作され、それぞれの「必要性」にそって調整されます。

そして、今日に至るまで原子力ロビーから否定されているのは、原発の原子炉でつくられるプルトニウムでも原爆が作れるという事実です。（核兵器所有国もまずは「平和な原子炉」から始めたのでした。）

この「原子力の平和利用」のため、ものすごい規模のプロパガンダ活動が始められました。「原子力の平和利用」はすべての人間に裕福な生活を、地球には楽園と平和を約束しました。そして人間には核技術が支配できるのだ、そして広島や長崎に落とされた原爆が恐ろしい被害をもたらしたような、最大規模の事故などは実際起きるはずがない、と言いふらしたのです。

あらゆる国のたくさんの人たちがこのメッセージを大歓迎し、砂漠がみずみずしい緑に光り、北極の氷がリビエラに生まれ変わる様子を目に浮かべました（環境エキスパートはさぞかし髪を逆立てて猛反対したことでしょう）。

今日に至るまで原子力産業は地球における楽園という約束を実現しなかったばかりか、反対に、たった 59 年の間に、中には長期に影響が及ぶ最大規模の原発事故 3 つを含む、周知の合計 11 もの深刻かつ重大事故を起こしています。大規模事故では、何世代にもわたりその影響を蒙っていくことになるでしょう。
「通常運転」であっても、この「産業部門」はその放射性物質放出、ウラン採掘、増え続ける一方の「処理解決」のできない原子力廃棄物の山、水上、陸上の核燃料物質輸送などにより人間と自然を十分に脅かし、猛毒を撒き散らし、荒廃させています。

原子炉からの電力発電は、世界で最も危険かつ高価な発電方法であるだけでなく、同時に最も「不効率」な方法であることがすでに証明されています（世界中の発電量のうち、原発による発電は 17%にも満たしていません）。

得をしたのは、巨大な儲けを得ながら、その運営費用は － 後始末にかかる費用もです － 納税者に押し付ける原発を運営する電力会社だけです。個人的な利得に社会的損失。「すべてのために裕福な生活」の代わりにたくさんの人を不幸にし、何世代にもわたる子孫に負の遺産を残すだけなのでしょうか？

そして、被害を蒙っているすべての自然、そして被害により普通の生活、健康、人生設計の基本、故郷、社会的ネットワークなどを失ったすべての人々は、まったくの犠牲者です。巨大妄想、自然を支配できるなどという人間の全能や優越を信じる信仰、盲目的な発展･技術の信仰、権力、金･所有欲、永遠に続く経済「成長」の信仰（なんの成長だろう？）の犠牲なのです。

今日では、世界中で約 2 万 2 千台の核兵器が「公に」装備されているだけでなく、440 基の原子力時限爆弾が原発、放射性廃棄物の貯蔵施設、研究施設、再処理設備などの形で、日々刻々、秒を刻んでいます。
世の中が平和であっても、これらは、自国民、他国民（友好国であってもだ）にとって暴力的な破壊力を発揮できる潜在能力として存在しているのです。空気や水の放射能には、政治的国境など無関係だからです。

この広場に集まった私たちは、どこかで、福島で起こった原発事故が最後の最悪規模の事故であり、このようなことを二度と経験しなくても済むだろう、と希望的観測をしています。

しかし、「原子力の平和利用」で起こったこれまでの 11 の原子力による重大事故は、平均で約 5 年ごとに起こっています。それに加え、ほとんどの原子炉が老化し、内部からも外部からも起こり得る危険性に対してさらに不安定になり、抵抗力をなくしており、私たちの望みなど無に帰しているのが事実です。

今ここでも、そのような事態が私たちを襲うことだって可能なのです。このベルリンにも原子炉が 1 基あるからです。

でも、私たちはただ希望を持っているだけ、現実から目をそらすだけでなく、もっとできることがあります。

ここに集まった皆さん、あなた方はすでにそれを始めています。一部の人々にとってはそれが初めの一歩かもしれません。しかしすでに 40 年前に運動を始めた人たちは、ドイツでは 1982 年後、一基も原発が新設されなかったという事実を成就したのです。

より多くの人が運動を始めれば始めるほど、声を高めれば高めるほど、意見をはっきり述べれば述べるほど、「国民の代表者たち」が国民の声を聞くようになるチャンスが大きくなります。そうすれば、例えばエネルギー変換政策に対し「高すぎる」（実際高すぎるのは原発による電力であるのに）だの、雇用が失われるだの、産業が空洞化するなどの殺し文句と嘘を信じる者がどんどん少なくなっていることを彼らは認めるようになるはずです。

原発が運転されていない西ヨーロッパの国々（デンマーク、イタリア、ノルウェイ、オーストリア）だって、「原始人の生活」に戻ってしまっているわけではありません。

月に着陸したのよりももっと偉大な人間の「進歩」とは、

- 人間がこの核･原子の道で手を休め、その道ですでになにが起き、これから何が起きるのか、その道がどこへ繋がるのかしっかり見届けること。決してパラダイスになど繋がってはいない、反対にこの世の地獄へと繋がっていることを悟ること。
- そしてこの道と決別し、人間の能力、知能、想像力を世界の平和への道に向けていく大きさを見つけること。

そしてこれはドイツや日本にとって特別難しいことではないはずです。

核分裂が発明されただけでなく、その誇大妄想が第二次世界大戦へも、そしてこの破壊的核兵器の開発とさらにはその使用にも招いてしまったドイツにとって。
そしてまた、広島と長崎に原子爆弾が落とされたことで、第二次世界大戦での自ら

の誇大妄想の犠牲者となっただけでなく、平和の時期に「平和利用の原子力」という支配できない破壊力により自分の国に被害を招かせてしまった日本にとって。

この二つの国が、賢い、責任を自覚した、自らの議会の任期期間を超えて将来を考えることのできる国民の代表者たちによって、持続可能な － 浪費と乱用を基本としたのではない － 、安価でクリーンで、とにもかくにも原子力や化石燃料による電気がこれまで続けてきたのとは異なる、危険のないエネルギー供給、しかも地方分散して、世界のどこであっても可能なエネルギー供給へと向かっていけば、そのエネルギー源のために一切何の戦争も行う必要はなくなるのだから、そうすれば人類にとって大きな前進、いや、人類の今世紀の精神的･社会的･経済的･文化的発展における最大の跳躍となることでしょう。

希望的観測？

40 年以上も前に自分の希望を実現するため動き始めた人々は、1982 年以来、ドイツでは原発が一基も新設されないという事実を実現させました。また、大企業によらない再生エネルギー供給もしかりです。そして 3 世紀以上前に市民が平等と人類の尊厳に関する願望を実現させようと努力してこなかったら、今日私たちは民主主義的構造も人権も享受していないでしょう。

ですから、世界中の国民代表者たちに言って聞かせましょう、彼らが代表している国民たちは、生命を危険にさらす、破壊的核技術の道を捨てたいと願っていることを。彼らが新しい、生を喜び、生命を大切に守る新しい道を切り開いていくよう、働きかけていきましょう。

SAYONARA NUKES!